

第49回地盤工学研究発表会に携わって

小宮 聡 (こみや そう)

九州工業大学大学院 博士前期課程2年次

平成26年7月15日から7月17日の3日間にかけて、福岡県北九州市の北九州国際会議場・西日本総合展示場の2会場にて、「第49回地盤工学研究発表会」が開催されました。本研究発表会では、開催地の九州だけでなく、全国から多くの学生、研究者、技術者の方々に参加して頂きました。また、研究発表会と同時に各機関・各企業の優れた技術を紹介して頂く「技術展示コーナー」や「特別講演会」、更にはリーガロイヤルホテル小倉にて「交流会」が開催されました。

私は、学生アルバイトとして、会場設営や運営等に携わるだけでなく、3日目には発表者として研究発表会に参加させて頂き、多方面に渡り、多くの経験をさせて頂きました。以下、私が本研究発表会で体験したことを簡単に紹介いたします。

まず初日は、前日の打ち合わせ通りに担当会場の会場設営と運営を行いました。私の担当した第11会場では、地盤挙動に関するセッションが開催され、多くの聴講者の方々に参加して頂き、活発な質疑応答が行われました。私は受付・会場運営を同時に行っていたため、本会場の全ての発表を聴講することはできませんでしたが、その中でも他大学の方や各企業の方々の多くの論文発表を聞く機会もあり、とても良い勉強をすることができたと思います。しかし、発表時間が7分という規定があり、発表時間を超過してしまう参加者が目に付きました。研究発表会は参加者・聴講者の良い意見交換の場であると思いますので、1セッション当たりの発表者数の見直し等、運営に携わる中で感じることも多く、次回の開催に向けて改善できる点も多いのではないかと考えます。

2日目は、初日同様、第11会場の会場設営と運営を行いました。2日目は、午後から特別講演会が開催されたため、発表会場の担当は午前中のみ行いました。会場では、地盤材料に関するセッションが開催され、初日同様、多くの聴講者の方々に参加して頂き、活発な質疑応答が行われました。私は、この日受付のみを担当したため、本会場の発表を聴講することはできませんでした。しかし、受付と同時に、隣接する会場の運営の手助けを行う中で、他大学の学生の方々と関わる機会を持つことができました。普段、他大学の学生の方々と接する機会は多くないので、学生アルバイトを通じてではありますが、研究や学生生活の話をする機会を持つことができるなど、初日とは違う形の良い経験ができたと思います。午後は、多くの技術展示コーナーを訪問させて頂き、各企業の優れた技術を拝見いたしました。また、市民参加行事の地震体験車や降雨発生装置等も体験し、今まで経験したこ

とのない震度7の大地震や集中豪雨を体験することができました。夕方からは交流会が開催され、企業の方々だけに止まらず、多くの学生の方々にも参加して頂き、とても賑わいのある良い交流会になりました。交流会では、地元北九州を中心とした美味しい料理やお酒を楽しむことができるだけでなく、小倉祇園太鼓やダンスパフォーマンスも開催され、参加者全員の良い交流の場になったのではないかと、と思います。

最終日は、2日目同様、午前中は担当する第11会場の会場設営と運営を行いました。午後は発表者として、隣接する第10会場にて論文発表を行いました。本セッションでは私の携わる研究と類似する発表も多く、今後の研究に向けて多くの知識・技術を学ぶことができ、とても良い経験になったと思います。

発表会の翌日、7月18日には見学会が開催されました。この日の見学会は「カルスト台地・門司港レトロと北九州港新門司沖土砂処分場コース」と「自然・歴史探求と五ヶ山ダムコース」の2コースがありました。私は、「自然・歴史探求と五ヶ山ダムコース」に参加させて頂き、西日本最大級の自然史・歴史博物館である「いのちのたび博物館」、特別講演会の題目であった「水城跡」、現在建設が進められている治水と利水の多目的ダムである「五ヶ山ダム」を見学しました。「いのちのたび博物館」では、地球誕生から現代に至るまでの自然と人間の歩みに関する展示物が多くありました。「水城跡」では、水城を建設するに至った歴史的背景や利用方法などを学ぶことができました。「五ヶ山ダム」では、現在建設中の現場を見学させて頂き、ダム建設の規模の大きさや建設技術の素晴らしさに圧倒されました。1日という短い時間でしたが、本見学会を通じて、普段体験することのできない多くの貴重な経験をすることができたと感じます。

最後に、今回の「第49回地盤工学研究発表会」では、学生アルバイトとして、会場設営や運営等に携わるだけでなく、発表者としても研究発表会に参加させて頂くなど、多方面に渡り多くの貴重な経験をさせて頂きました。この度、開催に当たって、ご尽力頂いた運営委員会の方々、また共に発表会の運営を支えてくださった多くの学生アルバイトの方々に大変感謝しております。末筆ながら、次回、北海道で開催される第50回地盤工学研究発表会がより実り多きものになること、加えて今後の地盤工学会の更なるご発展をお祈り申し上げます。

(原稿受理 2014.9.19)